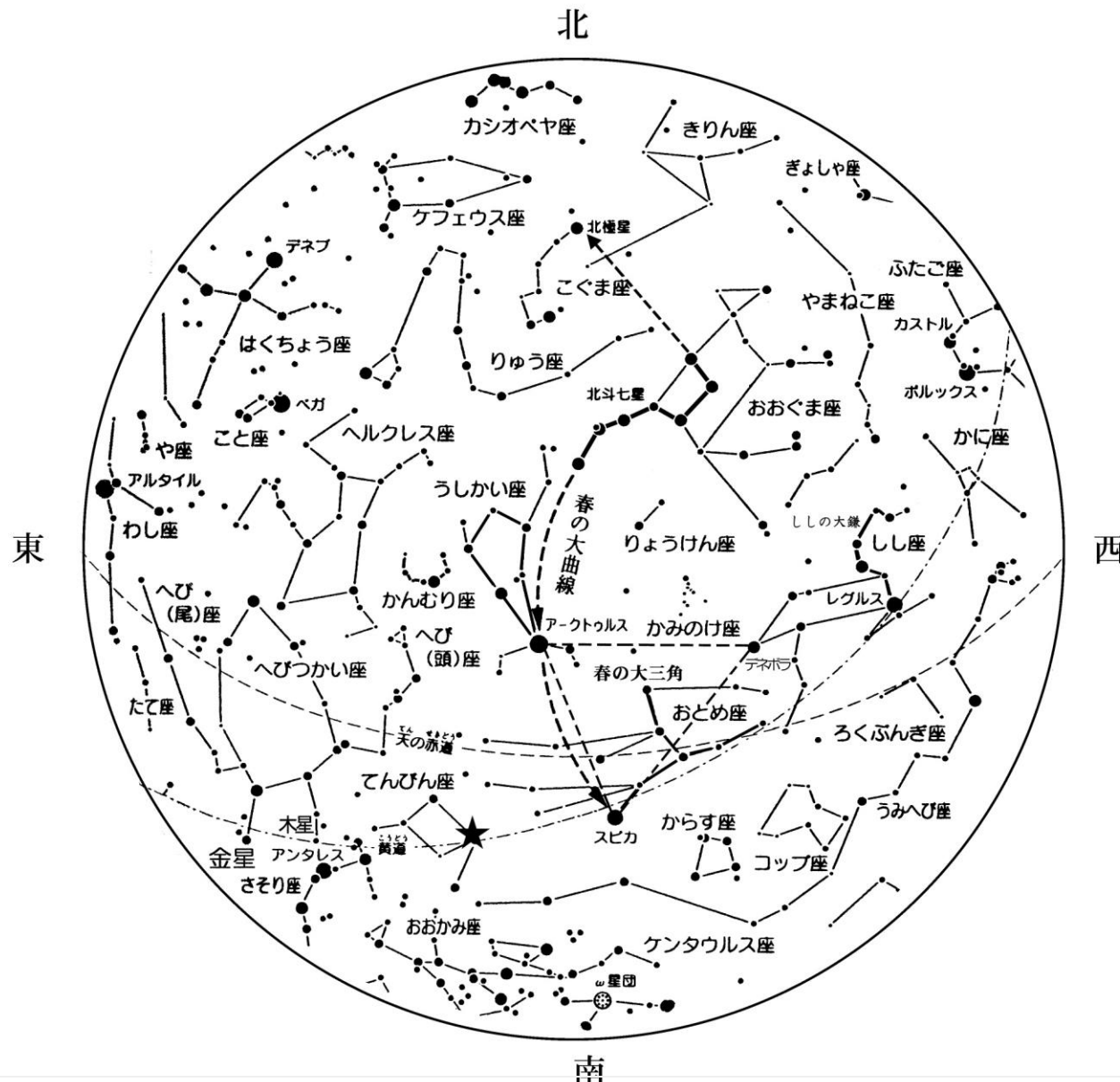


# 平成30年 6月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



## ★6月の星空案内

今月の星空では、まず北の空の7つの星でできる「ひしゃく」のような星の並び、北斗七星を見つけましょう。この「ひしゃく」の持ち手のカーブを南へのぼしていくと、オレンジ色の1等星アルクトゥルス、さらにのぼすと白色の1等星スピカが見つかります。このカーブを『春の大曲線』といいます。そこから、春の星座を見つけましょう。うしかい座はアルクトゥルスから「ネクタイ」のような星の並び、おとめ座はスピカから「アルファベットのyの字」の星の並びが目印です。この2つの星と2等星のデネボラを結んでできる三角形を“春の大三角”といいます。デネボラは「ししのしっぽ」という意味で、ここにはしし座があります。デネボラの西に1等星のレグルスがあり、ここから「?マーク」を裏返したような星の並び、ししの大鎌を見つけてもいいでしょう。

うしかい座の東側には、丸いお皿のような並びの**かんむり座**があります。明るい星はありませんが、整った形をしているので町あかりの少ないところでは見つけることができるでしょう。

### < 現在見える惑星 >

水星(-1.6等前後): おうし座→かに座付近  
 金星(-4.0等前後): ふたご座→しし付近  
 火星(-1.2等前後): やぎ座付近  
 木星(-2.5等前後): てんびん座付近  
 土星(0.2等前後): いて座付近

観測に適さない。  
 日没後、西の空でひととき明るく輝く。  
 夜明け前、南南西の空で赤っぽく輝く。  
 21時頃、南の空で明るく輝く。  
 真夜中、南南東の空で輝く。  
 一晩中見える。

### 注目の天文現象 ～次々に現れる惑星を見よう！～

6月の夜空では太陽が沈む頃、西の空で金星が輝き、南の空ではその明るさを競うように木星が輝いています。さらに、二つの明るい星を追いかけるように南東の空から昇ってくるのが、6月27日に衝(地球から見て太陽の反対側に天体がある状態)となる土星です。地球の外側を回る惑星が衝となる時は、一晩中その姿を見ることができるので、観望の好機となります。

土星は美しい環をもつことで知られています。その環の傾きは約15年周期で変化し、地球から見ると、環が大きく開いて見えたり、見えなくなったりを繰り返しています。2017年10月に最も環が大きく開いて見えた土星は、8ヶ月経った現在も、環が大きく開いた美しい姿を見せてくれています。

0時頃には7月31日に地球に最接近となる火星が、明るさを日に日に増しながら南東の空から昇ってきています。

梅雨の晴れ間は、次々と姿を見せる惑星の姿をぜひお楽しみください。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
7	木	☾ 下弦 (03:32)	21	木	夏至 (19:07)
14	木	● 新月 (04:43)			久留米市の日の出 (5:09)
16	土	西の夕空で細い月と金星が接近	27	水	土星が衝: 観望の好期 (21:35)
20	水	☽ 上弦 (19:51)	28	木	○ 満月 (13:53)